

株式会社谷口製陶所



代表取締役 谷口 英二朗氏

1300年の歴史ある美濃焼は“地域の宝”です。この産学連携は、斬新なデザインのタイルを商品開発し、美濃焼を幅広く世に知っていただくという意図で始めました。今回だけで終わるのではなく、5年、10年と長い取り組みになるだろうと思っています。



美濃焼タイル

美濃焼タイルは戦後の建築ブームに乗って右肩上がりに生産量を増やし、国内生産量の50%を越す量を担ってきました。しかし近年では中国をはじめとする海外生産の安価なタイルが台頭しています。こうした状況に同じような安価で対応するのではなく、美濃焼の本来の特徴である優れた意匠性にこだわりを持つことで競っていきたいと、名城大学に産学連携のプロジェクトを申し込みました。

取り組む目標は2つありました。1つ目は

社内で商品開発できる能力を育成すること、2つ目は美濃地方の焼き物をもっと幅広く知っていただくことです。毎年春に開催される展示会に向けて、前年の10月からスタートしたこのプロジェクトは、半年で成果を出すという非常に厳しいスケジュールですが、必ずモノになると手応えを感じています。

なによりもまず感じたのは、携わっているみんなが大きなやりがいを持って取り組んでいることです。従来の常識をくつがえす斬新なデザインを大学側から提案され、それを現

実化するために弊社の社員たちが技術的なハードルを越えなければならない。この試行錯誤の積み重ねのなかで、社員たちのモチベーションはすごく上がりました。

名城大学の学生さんたちも弊社の仕事場に入り込んで楽しそうにモノづくりに関わっておられます。学生さんたちが将来、タイルに理解の深い建築家として成長していただければ、タイル業界にも、美濃地域にも、そして弊社にも、幅広いメリットがあると非常に期待しています。

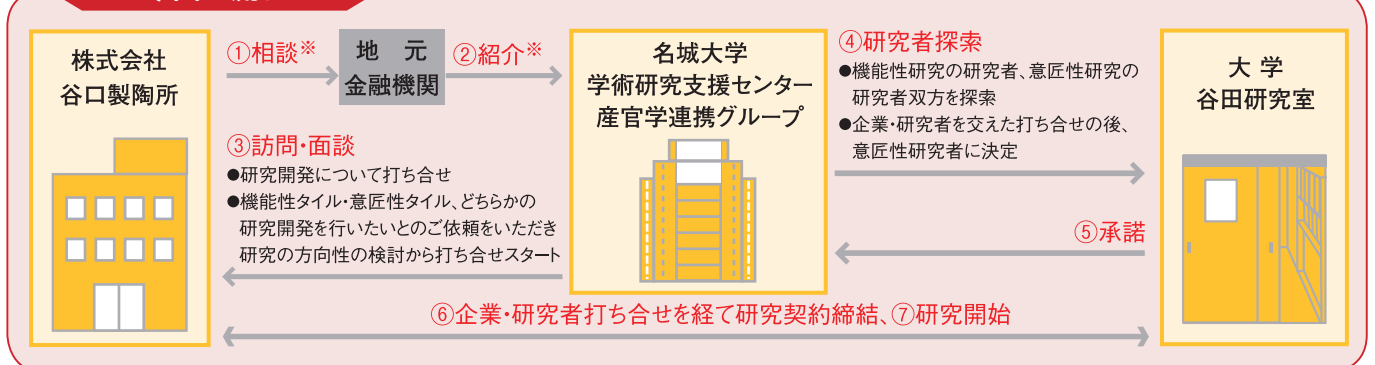


名城大学
理工学部 建築学科
谷田 真 准教授
1995年名城大学建築学科卒業
1997年名古屋大学大学院修士課程修了
仙田満+(株)環境デザイン研究所入所
2003年名古屋大学大学院博士課程満期退学
2008年University of East London
在外研究員

建築教育の中でタイルのデザインに関わる場面は少ないのですが、この産学連携では私たちが持つ専門知識が幅広い分野に役立つものだと再認識する良い機会となりました。今回のプロジェクトには、研究室に所属する多数の大学院生や学部学生たちが積極的に参加してくれ、マーケットリサーチからアイデ

ア出し、デザインの提案、ホームページやPR冊子の作成など、ものづくりの一連のプロセスを経験しています。学生という立場で、新製品を世に送り出し、利益を上げるというシビアな実社会が経験できる機会は少なく、産学連携はたいへん教育効果の高いシステムだと考えております。

今回の流れ



※本事例は地元金融機関との包括協定により地元金融機関から紹介いただいた事例のため①～のフローチャートとなっていますが、通常は直接本学学術研究支援センターにお問い合わせいただき③～の流れとなります。(包括協定：産学連携活動推進のため産学連携協力を本学と地元金融機関が協働。地元金融機関が取引先の新技術や新製品を開発したいというニーズを本学へつなぎ技術相談・共同研究相談などの橋渡しを行い本学が持つ研究・技術シーズを取引先へ紹介しマッチングを図ること。)